

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 株式会社インターナショナルアカデミー

1 事業の趣旨・目的

日本語学習支援に必要な基本的な知識を身につけること。
地域で日本語学習支援が必要だという認識を広めること。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
平成 21 年 7 月 21 日	米山道男、土橋信男、 阿部仁美、中川かず 子、後藤道、対木正文	日程、カリキュラムの構成、 募集方法等	募集要項、申込用紙の 内容
平成 21 年 11 月 13 日	米山道男、土橋信男、 阿部仁美、後藤道、対 木正文	第 1 回運営委員会のないよ うを受けて改善した点、中間 アンケートの報告	以後の実施計画、交流 会等
平成 22 年 3 月 1 日	米山道男、土橋信男、 阿部仁美、中川かず 子、後藤道、対木正文	最終日アンケートの報告、 交流会の報告	報告を受けて質疑応答

【写真】



3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名 外国人に日本語を教えるコツ 入門編

(2) 養成講座の目標

日本語学習支援に必要な基本的な知識を身につけること。

地域で日本語学習支援が必要だという認識を広めること。

(3) 受講者の総数 22 人

(4) 開催時間数(回数) 40 時間 (14 回)

(5) 参加対象者の要件

日本語ボランティアに興味のある一般の方や学生の方

日本語を外国人に教えることに興味のある方

講座修了後、地域で外国人の支援者として活動する意思のある方

外国人の生活支援に関心のある方

(6) 受講者の募集方法

ポスター、リーフレットを作成し、札幌市内の公共施設や教育機関に郵送・持参した。

(ポスター・リーフレットについては別紙添付。)

(7) 研修会場

IAY インターナショナルアカデミー内

(8) 使用した教材・リソース

教授者執筆の原稿(レジメ)、他。

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月17日 13:00-14:35	日本語教育（地域に根ざした日本語教育とは）	北海学園大学教授 神谷順子	18人
10月24日 13:00-14:35	日本語ボランティアとは（日本語ボランティアの役割、ネットワークなど）	北海道大学留学生センター講師 阿部仁美	18人
10月31日 13:00-15:25	日本語の文法入門1	北海道大学留学生センター講師 市川明美	16人
11月7日 13:00-15:25	日本語の文法入門2	北海道大学留学生センター講師 市川明美	16人
11月14日 13:00-15:25	日本語の音声入門1	北海道大学留学生センター講師 二村年哉	16人
11月28日 13:00-15:25	日本語の音声入門2	北海道大学留学生センター講師 二村年哉	18人
12月5日 13:00-15:25	日本語の教授法入門1	JICA 札幌国際センター講師 木元てる代	17人
12月12日 13:00-15:25	日本語の教授法入門2	JICA 札幌国際センター講師 木元てる代	18人
12月19日 13:00-15:25	実習入門1	IAY 日本語教師養成講座講師 瀧川浩子	15人
1月16日 13:00-15:25	教材教具論入門	札幌大学講師 伊藤早苗	16人
1月23日 13:00-15:25	教材教具論入門	札幌大学講師 伊藤早苗	15人
1月30日 13:00-15:25	実習入門2	IAY 日本語教師養成講座講師 瀧川浩子	15人
2月6日 13:00-15:25	実習入門3	IAY 日本語教師養成講座講師 瀧川浩子	17人
2月13日 13:00-15:25	実習入門4	IAY 日本語教師養成講座講師 瀧川浩子	16人

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

Q 講座を受講して、日本語の学習支援について基本的なことを知ることができましたか。

できた	15
できない	0
その他	1

Q 受講後、どのようにしていこうと思いますか。【複数回答可】

地域で日本語の学習支援に関わっていきたい。	7
今すぐは日本語学習支援に関われないが、将来関わりたい。	9
さらに(日本語の教え方等について)研修や勉強をしてみたい。	6
地域の日本語学習支援に関わりたいたと思わない。	0
その他	0

Q この講座を終えて、講座に満足していますか。

満足している	14
満足していない	1
その他	1

② 実施主体からの研修内容結果評価

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

もうひとつの事業である日本語教室(「外国人保護者のための日本語教室」)の授業見学や授業補助を行ってもらい、地域の日本語の支援を必要とする外国人の実情を知っていただけた。

② 研修後の人材活用

地域の日本語ボランティアで活動している教授者に、具体的なボランティア団体、ネットワークをご紹介いただいた。

(12) 今後の課題

限られた時間数の中で日本語を教えるとはどのようなことか、支援とはどのようなことかを知っていただけるよう、内容が偏らないよう、入門的なカリキュラムを構成した。受講者からは、実際日本語を教えるにあたっては、ボランティアとはいえ様々な知識が必要なため、「覚えきれない」「思ったより内容が専門的」「内容が濃い」等の声があった。

しかし実習をカリキュラム後半に組み込み、準備から生徒役外国人に日本語を教えるところまでを体験したことにより、受講者からは達成感、満足感を得たとの声が多かった。

実際のボランティア活動につなげていけるよう、時間数の確保、情報提供等が必要である。